

令和7年11月7日(金)
第2学年 普通科 36名
場所 県立延岡星雲高等学校 体育館
指導者 近藤伸哉

1 単元名 球技(ネット型:バドミントン)

2 単元の目標

- (1) ネット型:バドミントンについて、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。

イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。

(知識及び技能)

- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(思考力, 判断力, 表現力等)

- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

(学びに向かう力, 人間性等)

3 運動の一般的特性

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに喜びを味わうことができる運動である。

バドミントンはネット型の球技に分類され、サーブやクリア、スマッシュといった多様なショットを使い分け、シャトルを相手コートに落としたり、相手の返球を防いだりして勝敗を争うところに楽しさがある。特にダブルスでは、パートナーと連携してコート空間をカバーしたり、相手の隙を突く空間を作り出したりするといった、シャトルを打たないときのポジショニングや予測からも楽しさを味わうことができる。

高められる体力要素としては、主に巧緻性、敏捷性、スピード、そして全身持久力を高めることができる運動である。

4 生徒の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本選択生は運動部に所属している生徒が多く、授業に対して積極的に取り組む生徒は多い。しかし、運動が苦手で、体育の授業に対して、消極的になってしまう生徒も一部いる。球技(ネット型)の中ではバドミントンに興味や関心を抱いている生徒は多い。

(2) 「知識及び技能」、「思考力,判断力,表現力等」、「学びに向かう力,人間性等」の習得状況

「知識及び技能」に関しては、高校1年次で全員がバドミントンの授業を履修している。そのため、基本的な知識や技術を習得できている生徒も多いが、仲間と協力して攻撃や守備をすることが苦手な生徒もいる。

「思考力,判断力,表現力等」に関しては、技能習得の個人差を踏まえながら、得意な生徒が中心となって苦手な生徒に対して積極的に関わろうとしている。チームや自分の課題を発見し、解決のための練習方法を考案することを苦手としている生徒が多い。

「学びに向かう力,人間性等」に関しては、球技に対して主体的に取り組もうとしている生徒はとても多い。一人一人の違いを理解し、お互いに助け合い、高め合っていくことが課題である。

(3) 体力の状況

	男子 (20人)					女子 (16人)				
段階	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数	6人	9人	4人	1人	0人	3人	4人	4人	5人	0人
%	17%	25%	11%	3%	0%	8%	11%	11%	14%	0%

今年度の新体力テストの総合評価の割合は、A評価の生徒が25%、B段階の生徒が36%、C段階の生徒が22%、D段階の生徒が17%、E段階の生徒が0%という結果であった。

5 学習を進めるにあたって

本単元では、生徒の実態を踏まえ、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しながらゲームを展開し、課題解決する能力を育成する内容となっている。学び合いや教え合いでの経験を通して、運動の楽しさを味わいながら、チームや自己の課題を発見し、課題解決をしていくことを学ぶには最適な領域だと考える。

単元の前半は、基本的な技能の名称や行い方の学び直しを行ったうえで、ICTを活用しつつ、個人技能が高まるように指導していきたい。

単元の後半は、一人一人の違いを大切にしながら、誰もが楽しめるバドミントンを考えさせることを重視し、生涯にわたって運動に親しむための資質・能力を身につけさせるための指導を行っていきたい。

そこで本時の学習にあたっては、目標を「選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘することができるようにする」と設定した。

導入段階では、3限目の個人分析から具体的に分析をってもらうストロークについて選択させる。

展開段階では、グループに分かれ、それぞれのグループごとに役割分担をして、動画撮影や分析を行わせる。

終末段階では、他者分析や、自己の動画分析から、具体的な改善方法について考えさせたい。

6 単元の評価規準 (○第2学年 ・第3学年 ◎共通)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
内容のまとめりごとの評価規準	<p>【知識】</p> <p>○球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>◎競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>【技能】</p> <p>・サーブでは、ボールに変化をつけて打つことができる。</p> <p>○ボールを相手側のコート の守備のない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。</p> <p>・ボールに回転をかけて打ち出したり、回転に合わせて返球したりすることができる。</p> <p>・変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすることができる。</p> <p>・移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につながるための次のプレイをしやすい高さや位置にトスを上げることができる。</p> <p>・仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。</p> <p>○ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。</p> <p>・チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。</p> <p>◎ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。</p> <p>・相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができる。</p> <p>・仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きをすることができる。</p>	<p>○選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。</p> <p>○課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。</p> <p>・チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てている。</p> <p>・練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案している。</p> <p>・練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。</p> <p>・チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。</p> <p>・チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。</p> <p>◎体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p> <p>・球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>◎球技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・フェアなプレイを大切にしようとしている。</p> <p>・作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。</p> <p>○一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。</p> <p>○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p> <p>・危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。</p>
単元の評価規準	<p>【知識】</p> <p>①球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>②競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>【技能】</p> <p>①ボールを相手側のコート の守備のない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。</p> <p>②ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。</p> <p>③ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。</p>	<p>①選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。</p> <p>②課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。</p> <p>③体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p>	<p>①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。</p> <p>③仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p>

7 単元の指導と評価の計画（15時間）

時間		1	2	3	4	5	6	7
指導内容	知		① 技術名称・行い方					
	技			② ボール・用具操作				① ボール・用具操作
	思・判・表				① 分析・比較		② 課題解決	
	学・人	① 取り組む姿勢				③ 責任・協力		
学習過程	0分	オリエンテーション	準備運動①（フットワーク、シャトル投げ）					
	10分		【学び直し】各種ストローク ・クリア ※様々な人とペア ・ドロップ ※腕、体の使い方 ・ロブ ・ドライブ ・ヘアピン ・スマッシュ ・サーブ			【学び直し・W-up】 ・クリア ・ドロップ ・ロブ ・ドライブ ・ヘアピン ・スマッシュ		
	20分	簡易ゲーム				課題解決のための練習 ① 練習方法の工夫・選択 仲間との練習	狙い撃ち練習	狙い撃ち（グループ練習）
	30分		技能スキルチェック	技能分析（個人）	技能分析（チーム）			
	40分			ICTを用いたの、動画撮影と見本映像の比較（課題発見）	動画撮影とグループチェック 改善のための練習計画（課題解決に向けて）	技能チェック	狙い撃ち課題分析	課題解決のためのゲーム
	55分						課題解決のためのゲーム	
評価の機会	知		①					
	技					②		
	思・判・表				①		②	
	学・人							
準備物		ネット、支柱、ラケット、シャトル、タブレット、デジタイマー、得点板						
カリマネ	体育理論	運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方		運動やスポーツの技能の上達過程				
	保健	運動と健康						
	他教科							

8	9	10	11	12	13	14	15
				② 試合の行い方			
	③ 連携した動き						
② 課題解決			③ 共生				
		② 共生					

準備運動②（フットワーク、反応、瞬発）

<p>【W-up】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリア ・ドロップ ・ロブ ・ドライブ ・ヘアピン ・スマッシュ ・サーブ 		<p>グループワーク</p> <p>「する、みる、支える」の視点で何ができるかを話し合う</p>	<p>チーム練習</p>
<p>分析・比較</p> <p>選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘</p>	<p>ダブルス練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーメーションの確認 ・色々な人とペアを組む ・練習方法の工夫 ・戦術、戦略を学ぶ 	<p>ゲーム</p> <p>リーグ戦に向けての準備</p>	<p>ゲーム</p> <p>リーグ戦（目標に応じたリーグ）</p> <p>運営、審判などを生徒にさせる</p>
<p>練習考案</p> <p>視点表動画と比較分析し練習を考える</p>	<p>ダブルス実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合形式の中で、動きを確認 ・色々な人とペアを組む ・戦術、戦略を試す 	<p>ゲーム</p> <p>リーグ戦に運営、審判などを生徒にさせる</p> <p>自分の目標設定</p>	

				②			総合的な評価
		①				③	
②			③				
	③				②	①	

ネット、支柱、ラケット、シャトル、タブレット、デジタイマー、得点板

	運動やスポーツの技能の上達過程			豊かなスポーツライフが広がる未来の社会			

8 本時の学習（4／15時間）

（1）本時の目標

- 選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘することができるようにする。

（思考力、判断力、表現力等）

（2）本時の評価項目

- 選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。

（思考・判断・表現）

9 学習指導過程

段階	時間	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○:評価の項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する」状況 と判断される生徒へ の手立て
はじめ	0	1 用具や場の準備 2 集合、整列、挨拶 3 健康観察			
	5	4 ウォーミングアップ(準備運動、フットワーク、シャトル投げ) 5 各種ストローク練習	・実際のバドミントンの動きを意識して行わせる。		
なか	10	6 本時のねらいの確認			
	選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘しよう。				
	15	7 視点表確認(自分が力を入れたいスキルのポイントを確認する) 8 分析タイム(2分) 4人組をつくり、競技者、ノッカー、記録者(撮影)、分析者に分かれて行う。	・特に意識しないといけない部分について考えさせる。 ・グルーピングは教員が事前に行い、すべてのグループの技能程度が均等になるように留意する。(最低でもノックができる人を2人配置する)		
	45	9 振り返りタイム(2分) 分析タイム後に分析者より良かった点、修正点を伝える。 8,9を入れ替わりながら繰り返す 10 分析練習計画考案 修正点を改善するため視点表の動画と見比べて分析し改善方法を考える。	・分析者はホワイトボードにメモを行い、競技者に良い点、修正点をわかりやすく伝える。 ・記録者に、視点表の映像と同じ画角になるように撮影させる。 ・視点表の動画と見比べながら、どの部分を改善したら良いか考えさせる。	○選択した運動についてチームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。 【Aの例:自己やチームの動きを観察・分析し、根拠を示しながら具体的かつわかりやすく改善点や良さをつたえている。】	○手本の動画と自己や仲間の動きを比較し違いや特徴を記録させる。動きのチェックリスト(姿勢・打点・面の向き等)を活用し、観察視点を明確にする。
まとめ	50	11 本時のまとめ Googleフォームを使い、分析者として分析した内容・改善方法を記入する。 次時の確認	・分析者のメモとして使用したホワイトボードも記録する。		
	55	片付け			